

● 本校における道徳教育の推進と組織体制

本校では令和元年度より「道徳教育改善・充実」総合対策事業（メニュー1）の指定を受けており、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、発問の工夫や多様な方法を取り入れた指導の工夫などの授業改善を進めてきた。本年度は、研究主題を「主体的・協働的に、よりよく生きようとする力を育む道徳教育—道徳科を要としたカリキュラム・マネジメントの充実を通して—」とし、生徒に「道徳科での学びを実生活の中で生かしている」という実感を持たせることができるよう、全体計画の見直しや全教師参加型の指導体制の確立などに取り組んでいる。

令和2年度 研究の概要

（1）道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を促す指導方法の工夫・改善

- ・思考を促す発問の工夫や一往復半の対話の充実、多様な方法を取り入れた指導の充実を行い、生徒が対話を通して考えを深める授業改善を行う。
- ・身近な教材や人材を効果的に活用し、自分自身とのかかわりの中で考えを深めさせる。

（2）道徳科を要とした、カリキュラム・マネジメントの充実

- ・内容項目ごとに各教科等と道徳教育との関連の明確化を図るために、道徳教育全体計画（別葉）の工夫改善を行う。
- ・各教科・領域等との関連を図った「総合単元的な道徳学習」を各学年で実施し、学校教育全体を通して道徳性の育成を行う。
- ・「ありがとう週間」と「ほめ言葉のシャワー」の取組の継続的な実施及びその質的向上を図り、道徳科と関連させた指導を行う。

（3）道徳科の指導等に全教師が関わる体制の構築

- ・複数の教師による「主題分析シート」を活用した教材研究やローテーション道徳の実施により、全教師参加型の指導体制を確立する。

研究推進体制

道徳教育推進委員会を設置し、管理職、各分掌主任、道徳教育推進教師が中心となって研究の方向性を決定している。また、全教職員が道徳科部会、教科部会、特別活動部会に所属し、各視点から取組を行うなど、教科等横断的な道徳教育の実施に全教師が関わる体制を構築している。

